



## 一般推薦入学試験の合格者発表

10月30日(金)に令和3年度入学一般推薦入学試験(44名応募)を行い、11月12日(木)に41名の合格者を発表しました。その結果、9月30日(水)に実施した農業系高校後継者特別推薦入学試験合格者を合わせ、52名が推薦入学試験に合格しました。

本年度の受験生の特徴として、①全受験者のうちオープンキャンパスや緑の学園研修に参加した受験生が98%、②同じく農業関係高校からの受験生が83%でした。さらに、③農家子弟が24%(特別推薦を含めると40%)となり、専攻別では、露地野菜、施設野菜、作物、酪農の各専攻に多くの希望が集中しました。

試験当日は受付時に検温と体調の確認を行いました。受験会場も受験生同士の間隔を空けて待機してもらいました。午前中に小論文試験を実施しました。出題されたテーマは、愛知県の農業の特色や、その特色を活かした考え方を問うものでしたが、制限時間いっぱいまで取り組む姿が印象的でした。午後からの面接では、試験の直前まで準備してきた資料に目を通し、面接の所作を確認する姿がうかがえました。

受験生一人一人の熱意がひしひしと伝わる入学試験となり、受験生もやり切った思いが強く、会場をあとにする際に、「来年度お世話になります」と笑顔であいさつをしていく受験生もいました。

合格した受験生は、コロナ禍で思い描いた高校生活が叶わず心の整理が難しい中、努力を積み重ね力を発揮されました。来春からは農大生です。農大職員一同、共に農業を学べる日を楽しみにしています。

(学務科 近藤 靖之)

## 派遣実習を終えて！

農学科1年生の農家派遣実習の終了式を10月23日(金)に行い、冬休みに実習する学生などを除き39日間の派遣実習を終えることができました。これもひとえに、受入農家の皆様や農業改良普及課など関係機関の御支援と御指導の賜物と深く感謝しています。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大で、受け入れてもらう側も受け入れる方も、例年とは異なる特別な配慮が必要となりました。感染者の発生やそれに伴う実習の中止等の可能性も危惧されましたが、各人・各段階での対策により、大きな問題もなく無事実習を終えることができ、安堵しています。

学生は、それぞれの受入農家において、作業効率やスピード、経営の工夫や考え方、最新の作業機械や情報収集機器などに接し、思考から技術まで多くを実地で学びました。アンケートでは、「農大とは桁違いの作業量や集中力が求められる中、予測して動く必要性やコミュニケーションの重要性が身にしみた」「もっと学びたいという意欲がわいた」「作業効率を考えるようになった」等、自身の変化や成長を実感していました。

受入農家の学生評価は、「非常に良くできた」や「良くできた」が大部分で、ほとんどの受入農家からは今後も受け入れてもよいとの回答でした。その一方で、学生全体の、集中力の持続性の問題や、あいさつをはじめとしたコミュニケーション能力の不足、非農家や農業高校以外の出身学生の農業経験が少ないことからの知識や技術の不足、等の指摘もありました。

このような状況を考慮しつつ、今後も受入農家の方に御協力いただけるよう、また

学生にはより実り多き実習となるよう、派遣実習の目的や位置づけを明確にしたいと考えています。

(農学科 川上 幸裕)

## 県外学習

### 高冷地での栽培技術や新時代の販売戦略を学ぶ in 長野・岐阜 (鉢物・緑花木専攻、切花専攻)

10月8日(木)・9日(金)の2日間、鉢物・緑花木専攻及び切花専攻の2年生17名が、長野県及び岐阜県へ県外学習に出かけました。

1日目の8日(木)は、愛知県とは異なる高冷地での栽培技術や経営戦略を学ぶため、長野県飯田市を訪れ、カーネーションやユーカリを生産している関島和幸氏の圃場と、シクラメンやアジサイを生産している木下直則氏の圃場を見学しました。関島氏と木下氏には、温暖地とは異なる高冷地の栽培方法や、販路確保のために出荷先の小売店との連携が重要であることなどについてお話しいただきました。学生は、農大の実習で学んでいることとの違いや、現場での創意工夫を感じ取り、熱心に話を聞いていました。



[関島氏の圃場で説明を聞く学生]

2日目の9日(金)の午前は、岐阜県瑞穂市でサボテン等の多肉植物や観葉植物の生産・販売を行っている、株式会社岐孝園を見学しました。代表取締役の加藤孝義氏に

は、消費者に正確な情報を知らせながら販売していくこと、消費者の嗜好の多様化に合わせ多彩な商品を開発すること、SNSを使った情報発信が重要であることなどについて御講演いただきました。また、サボテン等の鉢物が生産されている様子を見学し、学生は、生産規模の大きさや、多様な商品ラインナップに驚いていました。



[岐孝園で加藤氏の講演を聞く学生]

2日目の午後には、岐阜県可児市の花フェスタ記念公園に立ち寄り、多くの種類のバラが栽培されている庭園や、温室内のテーマ展示などを見学しました。

2日間にわたって、学生は様々なことを見聞きし、花きの生産・販売についての理解を深めることができました。今回学んだことを、残り少ない農大生活のみならず、卒業後にも活かして活躍してくれることを期待しています。

(農学科 原 知明)

### 自然栽培と石川県の果樹について 学んできました(作物専攻、果樹専攻)

10月28日(水)、29日(木)に作物専攻の2年生8名、果樹専攻の2年生14名が県外学習で、のと里山農業塾研修所、石川県農林総合研究センターを視察しました。

1日目、のと里山農業塾研修所では、JAはくいの担当者から自然栽培事業について説明していただいた後、研修ほ場を見学しました。その後、砂山ぶどう園で自然栽培を実践した種有ぶどうのほ場見学を行いました。



[J Aはくい自然栽培事業の説明を受ける様子]



[砂山ぶどう園の見学の様子]

2日目、石川県農林総合研究センターでは、会議室にて概要説明および果樹活動事例について説明を受けました。概要説明では当センターで育成された品種の紹介とコメの低コスト生産技術、ICTを利用したほ場管理システムの研究などの説明を受けました。また、果樹活動事例ではブドウ「ルビーロマン」およびナシ「加賀しずく」の育種と普及方法、販売戦略について学びました。

J Aはくいでは、普段触れることのできない自然栽培事業についての説明を受



[石川県農林総合研究センターで説明を聞く様子]

け、興味を持ちながら聞いていました。作物専攻では無農薬・無化学肥料栽培に取り組んでおり、栽培面でのアドバイスも受けることができ大変参考になりました。

石川県農林総合研究センターでは、ぶどう「ルビーロマン」などの新品種の開発エピソードを聞くことができ、良い品種を作るだけでなく、ブランド化や販売戦略の重要性を学ぶことができました。

普段見ることができない場所を視察したため、学生たちは興味深く見学していました。見学後には、活発に質問が交わされ有意義な視察となりました。

(農学科 佐野 達也)

## 校外学習

### 花きの最新試験研究と観葉の高品質栽培を学ぶ(鉢物・緑花木専攻)

鉢物・緑花木専攻の2年生(8名)が、11月2日(月)に校外学習として、愛知県農業総合試験場と、豊田市の観葉植物農家2戸を視察しました。

農業総合試験場では、はじめに花き研究室の二村室長から花きの主な試験概要についての講義を聴き、その後ほ場で真野研究員からポインセチアやシクラメン、服部研究員からコショウランの試験内容について説明を受けました。ポインセチアでは輸出に向けた輸送時の葉の黄化や根傷み防止技術、コショウランでは夏場の冷房経費削減技術について研究しており、新技術の開発に向けての取組に、学生は興味深く話を聞いていました。

農家視察ではポトス栽培の鈴木孝三氏、モンステラ栽培の近藤征広氏のほ場を見学し、栽培方法や経営方針等について話していただきました。同行の松野普及指導員より、二人とも高品質・安定出荷により市場から高い評価を受けていると聞き、実際に生産物を見て葉のツヤやボリューム、草姿の美しさに感心しました。オリジナルの土



作りや丁寧なかん水、植物に合った環境制御や病虫害防除など、きめ細やかな管理がなされていると同時に、大量の鉢を自家労力だけで管理して周年出荷していることに、学生は驚いていました。



[ポトス経営の鈴木氏の話聞く学生]

長らく花き業界は厳しい状況だと言われてきましたが、長年培われた農家の篤農技術と今日の課題解決のための新技術を融合させていくことが、現状突破のカギになると感じました。

(農学科 坂場 功)

### 田原市の切花農家から様々な新技術について学ぶ(切花専攻)

11月12日(木)に切花専攻2年生が、切花の栽培技術、新技術を学ぶ目的で、東三河農林水産事務所田原農業改良普及課管内のカーネーション農家とキク農家へ校外学習に行きました。

カーネーション農家の本多清和氏は、新技術の導入に積極的な方で、ハダニの増殖を抑えるためのLED電球による紫外線照射を行ったり、土壌改良のための様々な資材を導入していました。栽培しているカーネーションは、茎が太く、まっすぐな高品質のもので、学生は皆、感心していました。品種は「ムーンライト」や「ジミー」などスタンダード系を中心に土耕や隔離ベッドで栽培していました。



[カーネーションの新技術導入について説明を聞く学生]

キク農家の夏目佳史氏は、二酸化炭素施用を行ってキク栽培を行っており、温室内の二酸化炭素濃度や温湿度がモニタリングできるICT機器の「あぐりログ」によって濃度を確認しながら高品質のキクができるように工夫していました。品種は、「精の一世」と「神馬」の2品種に絞って栽培していました。冬季の温度管理や電照方法についても話を聞くことができました。



[キクのICT機器(あぐりログ)について説明を聞く学生]

今回の視察先は、どちらも新技術の導入に積極的な切花農家であり、学生は、品質の高いカーネーションやキクを作る現場の様子を熱心に視察しました。

農家が様々な工夫をしていることに感心したとともに、新技術の導入状況を知ることができ、有意義な校外学習となりました。

(農学科 近藤 満治)

## 玄米の品質分析手法を学ぶ (作物専攻)

作物専攻の2年生8名を対象とした校外学習として、玄米の品質分析手法（近赤外分析器による玄米蛋白質含量の測定、穀粒判別機を用いた玄米外観品質の評価）について学習するため、11月2日(月)に愛知県農業総合試験場作物研究部作物研究室を訪問しました。

柏木技師より、近赤外分析器・穀粒判別機の使用方法についてレクチャーしてもらった後、学生を2班に分けてプロジェクト研究で使用する玄米の分析を行いました。測定後は、粒数カウンターで千粒重と水分計で水分の測定を実施しました。



[近赤外分析器での分析の様子]



[穀粒判別機での分析の様子]

学生たちは慣れない機械の操作に最初は戸惑っていましたが、次第にスムーズに使用できるようになりました。測定値について、正常値がどの程度か説明しながら分析を行い、おかしい値が出た場合には再分析を行う等、臨機応変に対応しながら各自のサンプルについて分析を行うことができました。

分析終了後は作物研究室の取組概要について説明を受け、愛知県での最新の研究内容を学ぶことができ、有意義な校外学習となりました。

(農学科 古川 恵)

## ブルーベリーについて学んできました (果樹専攻)

10月19日(月)、豊田市北東部の旧稲武地区でブルーベリー狩りなどをメインに経営している「ブルーベリーのこみち」へ視察に行きました。従業員の方から園内を案内していただき、仕立て方や土づくりについて説明していただきました。



[視察の様子]

園内を見学した後は、同じく当園が経営しているケーキ屋（こみちのケーキ屋さん）に場所を移し、園主の杉田雅子さんから就農に至った経緯や経営内容について説明していただきました。

雅子さんの農業にかける熱意に触れた学生からたくさんの質問があり、その都度、丁寧に回答していただきました。学生にとって、大変有意義な視察となりました。

(農学科 佐野 達也)



## トマトの栽培現場技術を学ぶ (施設野菜専攻)

10月29日(木)に施設野菜専攻2年生(13名)が校外学習として、JAあいち経済連苗センター、JA豊橋トマト部会農家、営農支援センターを視察しました。

苗センターでは、効率的な接ぎ木技術、苗生産をする上での病虫害対策について説明を受けました。学生からは、病虫害の対策の仕方や接木の成功率を上げる方法についてなどの質問が出ました。



[接木について説明を受ける学生(苗センター)]

農家視察では、JA豊橋トマト部会 池田部会長のほ場を視察しました。池田氏は、家族労力5名、パート1名の家族経営でありながら、85aの大規模経営を行っており、学生から池田氏の経営に関する考え方への質問が数多く出ました。池田氏から学生に①作業を先回りで行い、質の悪い仕事を行わないこと、②作業を好きになること、③ほ場で観察すること、を大切にしよう話があり、実績のある農家からの言葉に学生は熱心に話を聞いていました。池田氏からトマト管理作業に関する指導もあり、紐を結ぶ早さ、誘引の早さ、正確さを見て学生も刺激を受けた様子でした。



[池田氏から誘引について説明を受ける学生]

トマト生産の盛んな豊橋での視察には気付かされる部分が多く、学生とともに今後のトマト栽培に活かしていきたいと思えます。

(農学科 小嶋 博樹)

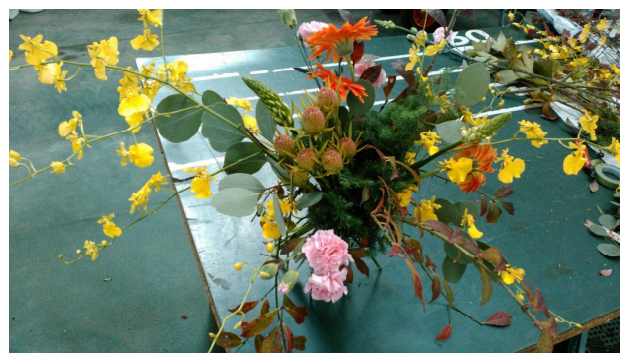
## 加工演習

### 続・フラワーアレンジメントの制作を学ぶ (鉢物・緑花木専攻、切花専攻)

鉢物・緑花木専攻及び切花専攻の2年生は、花きの活用方法を学ぶため、「農産加工演習」の一環として、フラワーアレンジメントを年間5回にわたり学習しています。安城市で教室を主宰する木村講師をお招きし、アレンジメント、コサージュなどの制作やデザインの基礎について御指導をいただいています。

11月10日(火)に本年度最後の演習が行われ、シュトラウス(ドイツ式の花束)や、サンクスギビングデー(収穫祭)の飾りを制作しました。

シュトラウスは、錦木を井桁に組んだ枠にフラワーワイヤーで持ち手をつけたものの中に花材を束ねていく形式のアレンジメントです。吸水性スポンジを土台として全体の形を作っていくという、過去4回の演習で扱った形式のアレンジメントとは異なる制作方法であり、制作の難易度もやや高めと思われましたが、学生は木村講師の説明をよく聞き、時には隣の学生と助け合いながら、すんなりと作品を完成させていきました。



[学生が作成したシュトラウス]



[手本として木村講師が作成した  
サンクスギビングデーの飾り]

また、サンクスギビングデーの飾りでは、稲穂を軸に据え、中心に麻紐とワイヤーで作った飾りと花材を組み合わせた壁掛け式の作品を作りました。

初回の演習では花材や道具の扱いに慣れておらず、苦戦を強いられる学生も多かったです。演習を重ねるごとに上達していく姿

を見て、学生たちの潜在能力の高さに感じました。当専攻の本年度の農産加工演習はこれで終わりですが、この演習で学んだことを、様々なことに応用して欲しいと願っています。

(農学科 原 知明)

### ハム・ソーセージづくりをしました！ (酪農専攻、養豚・養鶏専攻)

畜産課程（酪農専攻、養豚・養鶏専攻）の2年生が、10月19日(月)と28日(水)、29日(木)の計3日間、県畜産総合センターOBの柴田良一先生を講師に迎え、畜産物の加工方法を学ぶ農産加工演習を実施しました。

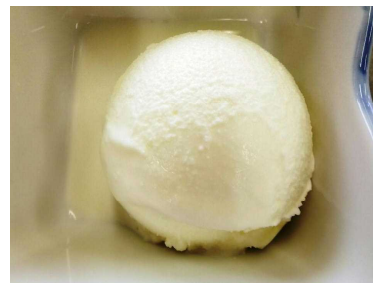
初日は、ハムを作るために豚のもも肉を香味野菜と調味料に漬け込み、1週間後に、その漬け込んだ豚もも肉を整形・ボイル加熱して、ハムを完成させました。

また、並行してソーセージづくりも行い

ました。豚ひき肉と調味料を練り上げて人工腸に詰める作業は、ほとんどの学生にとって初めての体験です。人工腸が破れたり空気が入ったりせず、器用に腸詰めができて、見栄えの良いソーセージを作ることができました。



[ソーセージの腸詰め作業をする学生]



[演習で作った加工品の数々]

愛知県産の良質な豚肉を使った手作りのハム・ソーセージは、肉本来の旨みがギュッと詰まった、他では味わえない逸品となりました。

さらに、牛乳と卵を主原料としたアイスクリームづくりにも挑戦し、良質で乳脂肪分を多く含む原料を使うことで、濃厚な味わいに仕上がりました。

自分たちで作った加工品は、班ごとに少しずつ出来映えが異なります。「筋切りが



多すぎた」「たこ糸をしっかりと巻いたので形が崩れず、しっとりとしたハムに仕上がって良かった」といった感想を話しながら、皆で試食を行い、楽しい実習になりました。

学生にとっては、畜産物の加工という普段できないことを体験する貴重な経験になりました。この演習を機会に、畜産物の生産だけでなく流通や加工にも興味を持って欲しいと思います。

(農学科 春日井 大輝)

### **農業者生涯教育研修**

#### **生産高度化研修（作物：茶業）を開催**

11月6日(金)、農大において、「茶生産の高度化・高品質化に向けて」をテーマとした生産高度化研修を開催しました。新型コロナウイルス対策のため参加人数を制限し、茶生産者を中心に38名の参加となりました。

講師として農研機構果樹茶業研究部門研究推進部の茶業連携調査役 吉田克志氏をお招きし、「農研機構が育成した茶新品種紹介 —「せいめい」を中心に—」と題し講演していただきました。最近栽培が増加している抹茶に適した緑茶用品種「せいめい」等の品種特性、栽培・加工上の注意点について分かりやすく解説していただきました。

また、静岡県スマート茶業実証コンソーシアム（静岡県経済産業部農業局お茶振興課、株式会社マキノハラボ等）から、「茶におけるスマート農業技術の実証」と題し、作業記録ツール、リモートセンシング、乗用型防除自動防除システム等の実証状況について、リモートにより講演がありました。

参加者に実施したアンケートの結果から、参加者全員が参考になったと評価し、新しい品種・技術の情報提供が好評で、有意義な研修となったことが分かりました。



[リモートによる講演]

しかし、リモートによる講演において、聞きづらさ、見づらさがあり、より良い研修会とするための改善点が明らかとなり、今後活かしていきたいと思います。

(担い手支援科 杉浦 直樹)

#### **果樹栽培における鳥獣害対策を学びました**

農業者生涯教育研修（生産高度化研修）が11月17日(火)に愛知県農業総合試験場（実用化技術研究会）及び愛知県果樹振興会との共催で開催されました。

今回のテーマは「果樹栽培における鳥獣害対策（中型獣とカラスを中心に）」と題し、県内からブドウ・ナシ生産者など70名が参加しました。

はじめに、西三河農林水産事務所農業改良普及課岡崎駐在室の林専門員から説明があり、アライグマ対策として電気柵の実証試験の結果が報告されました。次に農業総合試験場環境基盤研究部病害虫研究室の上田直人技師から、カラス対策の新技術開発として、止まり木に通電する実験結果の有効性が報告されました。

次に東三河農林水産事務所農業改良普及課の山口千明主任から、豊川市のナシ園におけるカラス対策が紹介され、テグスの設置と効果について説明されました。





[研修の様子]

講演後に意見交換が行われ、受講者からは、設置費用や草刈りなどの手間について質問があり、関心の高さがうかがわれました。また、研修後のアンケート結果では、参加者の8割以上が参考になったと回答しており、「すぐにでも取り入れられる」「参考になった」など、概ね好評で、有意義な研修となりました。

(就農支援科 柴田 健)

### 畜産（養牛）農家を対象に 生産高度化研修を実施

11月6日(金)、「乳牛の長命連産化に向けた泌乳平準化技術の開発と経営性評価」をテーマに研修会を東三河農林水産事務所農業改良普及課大研修室にて開催しました。県内農業者、JA職員、県・市関係職員等46名が参加しました。

なお、研修会は新型コロナ対応のため、「三密」を避けながら、検温・消毒・換気を適時行い開催しました。

研究発表は、まず、農研機構北海道農業研究センター酪農研究領域乳牛飼養グループの田鎖直澄グループ長より、「乳用牛の泌乳平準化による健全性向上技術の開発」、次に、愛知県農業総合試験場畜産研究部養牛研究室の佐藤 精主任研究員より、「乳牛の泌乳平準化について～飼養管理面から」、最後に、愛知県農業総合試験場企画

普及部経営情報研究室の荒巻 忍主任研究員より、「乳牛の泌乳平準化について～経済的視点から」の講演が行われました。



[総合討議の様子]

その後、愛知県農業総合試験場企画普及部広域指導室の森下 忠主任専門員を座長に、総合討議が行われ、乳用牛の泌乳平準化に関する質問が多く出されました。研修会は終始緊張感のある有意義なものとなりました。

(担い手支援科 杉浦 直樹)

### 県民公開講座

#### 農福連携研修～基礎から学ぶ野菜栽培～

農福連携は農業と福祉が連携して、障がい者の方々が農業分野での活躍を通じて自信や生きがいを創出し社会参画を促す取組です。農業分野では、労働力の確保などの課題解決につながることも期待されています。

近年、就労施設等において農業分野での障がい者就労を目指した訓練や支援に取り組む事例が増えている一方で、農業技術指導を行う福祉施設職員が、農業に関する技術や知識を学ぶ場が少ない現状です。このため、野菜栽培の基礎を学ぶ農福連携研修を昨年に引き続き11月11日(水)に開催し、9名が参加しました。

講師は農業大学校職員OBの加藤國雄氏にお願いし、豊富な経験と要点を押さえた

資料に基づいて野菜栽培の基礎について講義がありました。講義の冒頭では、「障がい者が、感動する野菜の味に出会えば、栽培にも意欲的になる」と考え、感動を与える野菜の種類とその収穫時期、食べ方等を話されました。栽培管理については、「優良な苗を無風時に植えて、かん水はしっかりとやること」「同じ種類の品目を続けて作付けすると、土壌病害が発生するため土壌消毒が必要になる。同じ仲間の野菜を連作しないように」「雑草管理は作付けする半年前から耕耘して、種が土壌にこぼれないようにすること」等の基本事項をわかりやすく説明されました。講義の後に、本校のほ場を見学して栽培管理のポイントなどに関するイメージを持っていただくことができました。



[加藤講師による講義の様子]

また、農業経営課の杉原主任主査から、農林水産省の農福連携に係る事業の支援内容の紹介や「JA愛知中央会の農福連携相談窓口」の役割について説明がされました。

研修後のアンケート結果では、「次回講義があれば聞きたい」「病害対策について掘り下げて聞きたい」「これから始めるので勉強になった」等の意見が聞かれ、参加者にとって満足度の高い研修会となりました。

(就農支援科 河野 真砂子)

## 農大からのお知らせ

### ◇新型コロナウイルス感染防止のためのお願い◇

校内における新型コロナウイルス感染防止の徹底を図るため、3つの密を避け、マスクの着用、手洗い・手指消毒を励行するなど、学生や研修生、職員への感染防止対策に取り組んでいます。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

なお、行事等については、新型コロナウイルス感染症の状況により、延期もしくは中止となる場合があります。その際は、農業大学校ホームページ等でお知らせします。

### ◇農大祭2020を12月5日に開催します◇

「未来へ継げよう農業への道 ～雨ニモ負ケズ風ニモ負ケズ～」をテーマに、農大祭2020を、12月5日(土)午前9時から正午まで、農大で開催します。

学生・職員一同心を込めて準備に取り組んでいますので、ぜひお越しください。

### 〈自慢の農畜産物直売〉

**鉢物・緑花木専攻**：シクラメン、アンズリウム、シンビジウム、ハボタン、コチョウラン、ポインセチア、パンジー、ビオラ、各種観葉植物等

**切花専攻**：キク、バラ、ストック

**作物専攻**：もち米、コシヒカリ、あいちのかおり、切り餅、わら細工、もみがらくん、炭

**果樹専攻**：ナシ、ブドウ、ジャム

**露地野菜専攻**：キャベツ、ハクサイ、ニンジン、レタス、ブロッコリー、カリフラワー、サツマイモ、サトイモ、ホウレンソウ、ダイコン

**施設野菜専攻**：トマト、キュウリ

**畜産グループ**：堆肥（牛糞・豚糞）、乾燥

鶏糞

養豚・養鶏専攻：鶏卵（名古屋コーチン、紅白ミックス、烏骨鶏、アローカナ、ワールドパック、どでか玉子）、プリン、クッキー、わら細工

酪農専攻：ぎんなん



【直売（昨年の農大祭）】

### 〈催し物〉

- ・後援会提供の農産物等販売
- ・茶道部による茶道の紹介、茶道具の展示、和菓子、竹細工の販売
- ・農大キャンパスツアー
- ・協賛団体・企業による展示・販売
- ・みあい特別支援学校 児童・生徒作品展示

### 〈御来場の方へ〉

公共交通機関では、名鉄名古屋本線美合駅下車徒歩約10分です。

なお、会場への入口は、歩行者、車ともに北門からになります。正門からは進入できませんので御注意ください。車でお越しの方は、駐車場係の指示に従って御入場ください。

当日は、できる限り公共交通機関を御利用くださるようお願いします。

### 〈注意事項〉

- ・環境に配慮してレジ袋はありません。エコバッグ等を御持参ください。
- ・来場者は、マスクを着用してください。また、発熱等の症状がある場合は来場を控えてください。
- ・当日は、入口に受付を設置し、検温、手

指消毒、連絡先の記入をお願いします。

- ・受付終了時にシールをお渡しします。目立つ位置に貼付をお願いします。再入場時はこのシールを提示して入場してください。
- ・スマートフォンをお持ちの方は、来場前に新型コロナウイルス接触確認アプリのダウンロードをお願いします。
- ・新型コロナウイルス感染症の状況によっては、中止や内容の変更を行う場合がありますので、農業大学校ホームページを御確認の上、お出かけください。



- ・問合せ先：学務科（伊藤）0564-51-1602

### ◇緑の学園（1日農業体験学習）◇

- ・開催日時  
12月24日（木）  
午前10時から午後4時30分まで  
（雨天実施）
- ・対象：主に高校生（農業を学びたい高校卒業生を含む）
- ・定員：30名
- ・場所：農業大学校
- ・受講申込書を郵送又はファクシミリで研修部まで送付してください。  
（締切日：12月1日（火））
- ・詳細は本校ホームページを御覧ください。
- ・問合せ先：就農支援科（柴田）  
0564-51-1034



## ◇令和3年度入学者選抜試験◇

### 一般入学一次試験

- ・ 出願期間：令和2年11月12日(木)から  
令和2年11月26日(木)まで
- ・ 試験日：令和2年12月8日(火)
- ・ 合格発表：令和2年12月18日(金)
- ・ 試験科目：数学Ⅰ、小論文(800字以内)  
面接試験
- ・ 募集人員：定員100名のうち推薦入学合格者を除く人数
- ・ 受験会場：農業大学校

### 一般入学二次試験

- ・ 一般入学一次試験で合格者が定員に満たなかった場合に実施します。  
詳細については、一般入学一次試験の合格発表日(12月18日(金))以降に、本校ホームページを御覧ください。
- ・ 問合せ先：学務科(近藤) 0564-51-1602

## ◇生産物実習販売ごよみ◇

令和2年12月の生産物実習販売についてお知らせします。

- ・ 販売日：12月2日、9日、16日、23日  
(祝日を除く毎週水曜日です。)
- ・ 時間：午後3時から
- ・ 場所：農業大学校体育館他
- ※なお、袋入り堆肥は、第2機械庫前で販売します。(毎月第2水曜日)
- ・ 問合せ先：農学科(山本) 0564-51-1673

## 校内で家畜伝染病防疫対策実施中

農大では、鳥インフルエンザや豚熱など、家畜伝染病防疫対策を以下のとおり実施中です。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。

- 畜舎のある衛生管理区域への関係者以外の立入禁止
- 農大内の主要な通行ポイントに消毒用の消石灰を散布
- 関係車両等の消毒の徹底  
(車両消毒槽、動力噴霧器)
- その他、諸防疫対策を実施

## ◇農業大学校の公式 SNS の アカウントを開設 !! ◇

農業大学校の公式 SNS として Twitter、Instagram のアカウントを開設しました。ユーザーネームは「aichinou dai」です。学校行事や専攻学習・実習販売の情報等、日々の活動を投稿していきますので、是非御覧ください。

- ・ 問合せ先：農学科(古川) 0564-51-1673

